



対象 大型・深胸犬種	手術時間 60～90 分	入院 原則 当日退院	麻酔 全身麻酔
---------------	-----------------	---------------	------------

■ どんな手術？

GDV（胃拡張胃捻転症候群）の発症を防ぐために、胃の幽門部（出口側）を腹壁に縫合して固定する手術です。腹腔鏡による低侵襲アプローチで行い、傷が小さく回復が早いため、避妊・去勢手術と同時に行うこともできます。研究では発症リスクを 96%以上下げると報告されています。（病気そのものの詳しい説明は「疾患説明 予防的胃固定術」をご覧ください。）

■ この手術が必要なとき

- ・大型・深胸犬種（グレート・デーン、ジャーマン・シェパード、ラブラドル、ゴールデン等）
- ・GDV を過去に起こしたことがある犬
- ・近親に GDV の既往がある犬
- ・避妊・去勢手術と同時に行うことを希望する場合

■ 手術の流れ

- ① 全身麻酔をかけ、気管挿管を行います
- ② お腹に小切開を 3 か所あけます（ポート設置）
- ③ 二酸化炭素ガスでお腹を膨らませ、カメラで胃の位置を確認します
- ④ 幽門部（胃の出口側）を同定します
- ⑤ 専用器具で胃と右腹壁を縫合固定します（5～7 針）
- ⑥ ポートを抜き、縫合して終了します

■ 麻酔について

全身麻酔で行います。手術前に血液検査などで全身状態を確認し、麻酔のリスクを評価したうえで実施します。手術中はモニターで呼吸と循環を継続的に管理します。

■ 入院・退院の目安

低侵襲手術のため、原則として当日退院です。状態により 1 泊することもあります。

■ 術後のケア

- ・抜糸は 7～10 日後が目安です
- ・術後 7～10 日は安静に過ごし、散歩はリードを付けて短めにします（自由に走らせない）
- ・食後の激しい運動を控えることは術後も継続をお勧めします

■ 起こりうるリスク・合併症

- ・縫合部の固定が外れる（まれ）
- ・出血
- ・胃壁・腸管の損傷（まれ）
- ・感染

■ よくある質問

Q. いつ受けるのがよいですか？

A. 1～2 歳頃、または避妊・去勢と同時に行うのが理想です。何歳でも施術可能です。

Q. GDV になったことがなくても必要ですか？

A. 発症しやすい犬種では予防手術が費用対効果の高い選択肢です。GDV の緊急手術は費用・リスクともに大幅に高くなります。

Q. 予防固定をしていれば GDV は起きませんか？

A. 万一ガスで胃が膨らんでも、捻転が起きにくくなります。

■ なつ動物病院での対応について

なつ動物病院 気になることがあれば、予約外でもお気軽にご来院ください

なつ動物病院 気になることがあれば、予約外でもお気軽にご来院ください